

波紋

1989

5



「波紋5月号」より何故か編集長という『大役』を申しつけられました。初めのうちは、『代役』のつもりでがんばりますので、よろしくお願い致します。

入社して今年4年目です。思えば、入社当時は僕も編集員をやっておりました。というか自然とそうなっていたのです。

当時「編集会議」は昼12時45分よりやっていたのですが、昼寝が日課になっていた僕はそちらの方が忙しくて出席しませんでした。(一度だけ出席した記憶があります。)というのには表向きで実は、はすかしかったのです。編集員はすべて女子社員で男は僕一人だけでした。一度出席した時は、隅の方でただ下を向いているのが精一杯でした。

その繰り返しで、誰にも迷惑を掛けずに編集委員を抜け出すことが出来ました。

それがわかったのは、「編集会議の回覧」を見た時です。僕の名前が書いてなかったのです。『ホッ』としました。

一代目牧野編集長、二代目橋本編集長とが内容のある「波紋」を発行された為、ものすごく「プレッシャー」を感じております。はっきり云ってビビっています。

とにかく、今以上の波紋より今に劣らない波紋を作りたいです。今後共、宜しく御指導願います。

二代目橋本編集長、長い間本当に、お疲れ様でした。

交差点

社内結婚花ざかり

安井浩二君、美千代さん、おめでとうございます。私が社長になって23年目ですが、社内結婚は、沖本さん、高木さんに次いで3組目になります。ウワサでは、4組目、5組目も予定が、ほぼ決定しているように聞いています。

男性側から、女性側から見ても、結婚相手として認められる立派な独身が社内に多くいる、という事ですから、社長としても、大変喜ばしい事と思っています。

結婚式が決まると、ご両人とも人間的に変りますね。

まず、責任感が出てきます。素直さを増し性格が丸くなる。それで積極的にもなり、自信をもった行動を取るようになる。

結婚という人生最大のイベントを控え、「心がまえ」が違ってくるでしょう。

二人は気が合って結婚する訳ですが、仲人さん、ご両親・家族・友人・上司などに気を使い、根回しをして、脚本を書き、主演・監督を全部二人でやらねばならぬ。

結婚式は若い人を大きく成長させる原動力になります。(2回〜3回やればもっと成長出来る?)



トシ君の一方通行

私の家の側に床屋さんが5軒程ある（ほりやあるわな）。その1軒は決してきれいとは言いがたい。私は昔から不精でありまして、一定の床屋さんで整髪してもらうことが身につけていない。その理由は第一に待つということが嫌いでありますのと、ヘアスタイルに此程の関心が無いことです。従って空いてるところならどこでもよろしい。そこでクルクル回ったところがこの一軒である。そこへ入ってすぐ気がついたのがご夫妻が、お体の一部がご不自由である。話すこと、聞くことがかなり不自由であった。しかし私の話を一生懸命で聞こうとする、私はいつもの通り言った。いつもはムセーと何がおもしろくないかというような顔、そして小さな声で言うのを大きな声で「適当にお願いします」と、ご夫妻は二人して私の口許をジーンと見詰め、確認した。私は床屋へ行って髭を剃らない、割高でもいいから剃らない。私は髭はいいですとは言えなかった。ご夫妻の子供達が騒ぐ、奥さんは必死で身振り手振りで注意する。新幹線で子供達が走り回っているのを見ると腹がたつが、この時はお母さんの仕草ばかりが気になる。終わってからお金を払うと深々と頭をご夫妻が下げる。その床屋さんはあまり繁盛していないそうだ。でもきつと今に繁盛するさ、あの子供達はきつと立派に成長する。そうに決まってる。だって小さい時から両親の「後姿」を見て育つんだもの。

木村 英利

『フォーシーズンズ』

「あなたのお仕事は？」
さてあなたは何と答えますか。
「普通のサラリーマンです。」
「普通の〇しです。」
と答えた人は、すぐ会社をやめて下さい。給料を払うのもつたないです。
「普通の〇〇〇〇〇〇です。」という答には、生甲斐も目標も向上心も何も感じられません。ひどい言い方をすれば「アホ」です。
目標を持ち続けるという事は、とにかく重要なんです。たとえどんな目標でも持って下さい。
「夢はあるけど私には無理だろうなあ。」
「私は絶対にこの夢をかなえるのだ。」
この二つの意識の違いが結果としてどうなるか。想像がつくと思います。
目標を持ったら、それに対する良いイメージを常に持ち続けることが必要です。
自分の人生ですから生甲斐がなけりゃ、うそですよ。
「あなたのお仕事は？」
自分なりに生甲斐のある答を考えて下さい。

牧野 光昌



二代目編集長退任挨拶

牧野編集長のもと数名の女子編集員と共にこの社内報「波紋」の創刊号（七月号）を出してまもなく四年になります。
この方面に対しては全員全くの素人、手さぐりであれこれ模作しながらのスタート。
号を重ねる毎に徐々に、森松という会社の内側を御理解頂けていくようで、励ましのお手紙やデンプはとてうれしかったです。
そして一年後、編集の座を渡されそれまでが結構好評で発行部数も増えているだけに、いささか重荷。私としてはもっと大担に何か新しい企画を、またもう少しやわらかい部分もと思うばかりで、今一つも二つも才能不足で残念でした。
毎月「交差点」「トシ君の一方通行」そして「フォーシーズンズ」と私自身一番楽しみにしていました。編集長みょうりで真っ先に、目を通さしてもらい思わず感動して涙してしまった事も何度か。そんなこんなでいつの間にか二年と十ヶ月、長い間いろいろ本当に、ありがとうございます。

そしていよいよこの五月号より三代目編集長を伊東郁二君へバトンタッチ。
若い彼の事、きつとフレッシュな面白い部分も出してくれる事と期待しています。
ヤミの編集長ノ具々もよろしくお願いします。

橋本 正子

お誕生日

おめでとーございます



長沢三二五(製造)
昭和十二年
五月五日
生まれ

DC BA
遠い昔の事で
忘れました。
良くて、おふ
くろに、おま
持ったまま追
いかけてられ
しいかた。観
スポーツ観戦。
しままに旅行
がしたい。



橋本正字
(営業アシスタント)
昭和〇〇年
五月十八日生まれ

A
木の子も大得意、
いつも一番、
B男の子とチャンバラ
の時の傷跡が今でも
C映画(特に洋画)鑑賞、
た頃からずいっと、
うらな空いていますが、
っくりやそばよく、
います。

D ログハウスに住む事と、
カーで北海道をいっばい
………(孫達と………)



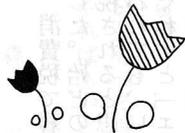
宝田かおる
(営業アシスタント)
昭和四十三年
五月二十三日生まれ

DC B
赤ちゃんの時、ハイハイが出来なくて
おしりですずってあちこち歩き回って
た事。
稲垣潤一・ユーミンのBGMを聞きな
がらのドライブ!!
アメリカを一ヶ月くらいかけて旅行し
てみたいデス。
それと早く赤ちゃんがほしい。



中神妙子(パートさん)
昭和〇〇年
五月二十四日
生まれ

DC BA
無口でおとなしい子でした。
昭和二十年に母を、三十四年に兄を
亡くした事が一番残っている。
自分で服を作る事。
三階建てに家を建て直す事。



今月の社内行事

五月

一日 経営会議
午前七時半より

三日 憲法記念日

四日 国民の休日

五日 こどもの日

六日 第一土曜日休日

七日 日曜日

休業

九日 YMS
午前七時半より

十日 FMS
午前七時半より

十二日 中堅幹部会議
午前七時半より

十三日 第二土曜日休日

私の事件簿 花の土曜日

花の土曜日とよく言うけれど、此の頃の私の土曜の夕方は、まさに「花の土曜日」なのである。この六月に6才になる「まりえ」は私にとって初めてのそして多分最後？の唯一人の可愛い孫である。生まれてからずっと一緒に暮らしてきたけれど、二月に近くの県営住宅にパパやママと共に引越してしまった。近くと言っても、それこそ文字通りみそ汁の冷めぬ距離なのである。それでも会社から帰って以前のように孫の声を聞けないとなると淋しい。そこで土曜の夕方になると私達二人が会社から帰るのを待って、家に泊りに来て私達夫婦を笑わせたり、困らせたりしてくれる。平日は家内と二人だけの夕食も土曜日となると賑やかで、私の横にちよこんと座ってビールの栓を開けたり、コップに注いだりサーブス満点だ。栓抜きを小さな両手で持って力一杯開けるのでピンをしっかりと押えていないと危ない。今日は一度であいた。と喜ぶ孫の顔を見ながら飲むビールは本当に最高の味なのである。もしかしたら今の私にとって一番幸せな一時かもしれない等と思ったりして……親馬鹿ならぬ爺馬鹿か？この子がお嫁に行く日、私はまだ元気でいるだろうか？妙な気持ちになる。

どうかこれから先大きな病気をしないよう素直な可愛い娘に育ってほしいものである。

宮本 昌俊

※クイズコーナー※

締切5月15日抽選にて3名様に賞品を差し上げます。どんどんご応募下さい。



〈絵と文字のパズル〉



●編集後記

消費税、消費税で暮れた一ヶ月でした。殆どのものに3%課税されると思えば良いと言われても、いざその場に出くわすと「エーッ！こんなものにもまで？」と思わざるを得ない時もあった。たのではないのでしょうか。今、これだけ騒がれていても、次第に慣れてくると誰もが感じていような気がします。やりきれない思いです。

さて、話は変わって、先月三十日に皆様に祝福され、安井・富田御両人めでたく結婚されました。何よりも健康で明るい家庭を築かれる事を、心より御祈りしています。

桜は終わりましたが、チューリップ、フリージア、パンジーと花いっぱい季節、香りを体いっぱい感じるながら、又、仕事に頑張ります。

岡田 洋子

編集発行者
森松株式会社

発行責任者
伊東 郁 二
平成元年5月1日
第 47 号